

●問い合わせ 中央公民館  
TEL 32-1132 FAX 37-1153  
●編集 公民館報編集委員会  
●印刷 株式会社プラト

発行  
2022  
3/30

# 公民館報 まつもと



シリーズ 受け継ぎ伝える松本のたから 60

## ムカデを引いて無事を祈る

疫病神に見たてたわらのムカデを引き回し  
平穏な日常を願う“こと八日”  
子どもたちの手で安心の日々が続く

(撮影 2022.2.6 入山辺舟付)

# シリーズ デジタル化 〈第1回〉 公民館と公民館報

行政のデジタル化が始まっています。住民自らが編集する公民館報は、行政文書とは一線を画しますが、デジタル化とは何なのか、この機会にシリーズで考えます。

## 公民館とは、公民館報とは

そもそも公民館の始まりはいつで、なぜ必要とされるのでしょうか。

終戦間もない昭和21年(1946)に、公民館の必要性を説いた、公民館の建設―新しい町村の文化施設

(寺中構想)が文部省次官通牒として出されました。

公民館は単なる貸館的な施設ではなく、地域住民の日常生活に密着し、その課題解決を図るための総合的な社会教育施設であるということを表しています。

構想に従い全国各地に公民館が作られ、昭和22年(1947)早くも松本市に公民館が設置されました。また住民自らが集

## 公民館の意義 寺中構想から抜粋

公民館は…民主主義を私たちが身につける為の「学びの場」

※民主主義を我がものとし平和主義を身につけた習性とするまで、我々を訓練しよう

※豊かな教養を身につけ文化の香り高い人格を作るように、努力しよう

※身につけた教養と、民主主義的な方法によって郷土に産業を興し、郷土の政治を立て直し、郷土の生活を豊かにしよう

公民館報は…民主主義を守るための「最後の砦」

い・学び・結ぶ公民館の活動や地域の様子を伝える公民館報も、住民自らが編集し発行を始めました。

## 公民館報と広報の違い

ここで広報と公民館報の違いについて考えてみます。



初期の館報の題字

まず広報は松本市(行政機関)が住民に、必要なお知らせをするためのものです。

一方公民館報は、さまざまな住民の社会教育活動を、住民自らが取材・編集して公民館報として記録し、同じ住民にお知らせし啓発を図るのが目的です。

広報が一方的な行政からのお知らせであるのに対して、館報は住民が共に学びあうために作成・発刊されるものといえます。

## シリーズの予定(仮)

- 今回 公民館と公民館報
- 2回 松本市の目指すデジタル化
- 3回 デジタル化のメリット・デメリット
- 4回 館報のデジタル化は可能か

## 視点

# ⑤ 特別編 若者から見た デジタル化

## 若者のデジタル事情

ネットショッピング、オンライン授業。デジタルが最も身近な世代は若者かもしれません。今号では「若者から見たデジタル化」をテーマに、大学生対象のアンケートを実施しました。144人から寄せられた「若者の声」をお聞きください。

## 約72%がスマホから!!

若者の多くがスマホから情報を入手しています。「情報はそのメディアで得ることが多いですか?」の質問に71.5%の学生が「スマホ」と回答しました。スマホ以外のメディアでは、テレビが24.3%、新聞が4.2%です。多くの若者が紙媒体ではなく、デジタル媒体から情報を得ていることがわかる結果になりました。

## デジタル世代は不安?

デジタル世代の若者がデジタル化に不安を抱えていない

わけではありません。「重要な書類のネット申請に不安はあるか?」の問いに、不安が「ある」または「多少ある」と回答した若者は、約83%に上ります。合わせて「デジタル化と聞いてイメージすること」は、「怖い・不安」「個人情報保護の面で心配がある」などデジタル化に対してネガティブな回答も見られました。新型コロナウイルスの影響によりデジタル化が加速するなかで、安全・安心にサービスを享受できる仕組みづくりが課題になっています。

## デジタルな未来

デジタル化は、紙からデジタルへの移行や昨今話題になった行政手続きの「ハンコ廃止、キャッシュレス決済」などにとどまることはありません。約96%の若者がデジタル化により「生活が便利になると思う」と答えたように、若者はデジタル化を前向きにとらえています。デジタル化の可能性は無限大です。

アンケートの詳細はこちら



# 公民館研究集会

2月20日に、未来へつなぐ私たちのまちづくりの集い

第37回公民館研究集会 令和3年度地域づくり市民活動研究集会が開催され、日頃の活動成果発表が行われました。

新型コロナウイルス対策として、会場を市内4ヶ所に約300人が参加しました。午前中は中央公民館にて基調講演とパネルディスカッションを行い、午後は6つの分科会が行われました。「いっしょにかたろう」「子ども」「a×地縁組織」多様な連携で生み出す新しい風「多様な地域学習が未来をつくる」「誰もが住みよいまちづくりってなんだろう?」「多様性の中の学びと自治」の中から2つの分科会をピックアップします。

## 基調講演

基調講演では、松本大学の松田武雄教授を招き「多様性のなかの学びと自治」と題し講演がありました。

「少子高齢化や新型コロナウイルス、自然災害、デジタル化の急速な進展により、私たちは将来を見通すことが難しい時代にいます。これらの課題を切り拓いていくために、世代や性別、国籍、障が



基調講演の様子

いの有無、そして価値観の違いを認め合いながら、活かし、力に変えてゆく多様性あふれるまちづくりが求められています。そうした出会いから始まる意識改革や新しい発見が、学びと自治に求められています。多様性を取り入れた活動で、自分たちが学びあい進化させていくことができません」と話してくれました。

パネルディスカッションでは、市内の3団体による活動発表があり、松田教授からは、「どの団体も何らかの多様性を活かした活動の工夫が見られます。活動を通じて地域の多様性の発掘がなされ、新たな担い手が登場していますね」と講評されました。

## 第二分科会「子ども」

「子どもを真ん中に」という考え方を大切にとらえた活動について発表があり、そのうち3例を紹介しました。

### 「島立つ子森・杜探検隊」

屋外での体験学習を通じて、自然の豊かさを五感で感じ、歴史と文化を学ぶと共に、命の大切さを育み、地域全体で子どもを育てていく活動。

### 「エンジェルム応援隊」

寿小学校の子どもたちの居場所作りに20分間の休み時間を利用して、地域の人たちと昔ながらの遊びを通じて、交流をする活動。

### 「ほらペこあむ」

松本市県でカフェを経営する増田さんは、2020年12月に一回目の子ども食堂を始めることを決意。地域の人々の協力で、次第に大きな広がりとなっていきました。コロナ禍のスタートであったが、高校生や大学生のボランティアも集まり、テイクアウトで実施。

どの事例も、「子どもを真ん中に」地域の住民・ボラン

ティアの皆さんの支援や関わりを通じて、地域社会を築く土台となる活動への継続が期待されます。



第二分科会での事例発表の様子

## 第五分科会

### 「誰もが住みよいまちづくりってなんだろう?」

各地区で行われている認知症カフェなどの事例を通して、地域で何ができるかを一緒に考えることで、住みやすい地域づくりを考えるきっかけづくりの場になりました。ごつくばらんに話し合うことで、参加者それぞれが何か新しい「気づき」が生まれたのではないのでしょうか。今回、コロナ禍での開催ということもあり、あらためて、リモートの便利で簡単、快適さについて考えさせられた公民館研究集会でした。

## おこひる

ほかほか陽気に誘われて妻とドライブに出かけた▼コロナ禍のため、なるべく車外にでないよう、おにぎりを持参で出かけた。

県外のドライブインでトイレ休憩し、いざエンジンスタート。セルは回るのにエンジンがかからない▼ボンネットを開けて困り果てていると、側にいた子連れの青年がやってきてエンジン内部を見るなり、ヒューズボックスを開けると自分の車に戻り、ヒューズを交換してくれた。エンジンは無事に復活。青年は帰り道にも同じ事が起こるといけないからと、予備のヒューズもくれた▼お札にと現金を渡した人が大変お世話になりました。その恩返しですとお札を受け取らなかつた。見ず知らずの同県人がした親切が、めぐりめぐって私たちに返ってきた▼人類の誰でもが、相手の立場に立って考え、他人に親切にしてあげられたらテレビから流れる痛ましい事件も少なくなるだろう。自分の権利や主張を追求しすぎ、自分中心で物事を考えてはいないかと考える良いきっかけとなった。

# 歴史探訪 探ろう松本 27

## お城とともに、松本文化の起点 中央地区

城下町の変化は松本の歴史です。大正ロマンも昭和の香りも感じられます。これからのまちづくりに期待が集まります。

### 城下の変遷と共に

松本城は16世紀初頭に造られた深志城が始まりといわれています。やがて石川氏の時代に天守の築造が始まり、整備された城下町がしだいに行政の中心として形成されました。

明治になると、市民活動により守られた天守閣を中心に警察署、神社、郵便局などが配置され、近代松本市の核が



昭和42年の商店並ぶ大名町通り  
(出典：『写真集松本いまむかし』)

できました。

市制施行後は、上土に建てられた市役所周辺に映画館や料亭などが進出し、総堀が埋め立てられた場所には、多くの飲食店が軒を連ね、大正ロマンの町並みを今に伝えます。

戦後、市役所や日銀が現在の位置に移転し、地方事務所、税務署、裁判所などが付近に配置されました。商店街の近代化事業により、歩道やアーケードが設置されるなど、住民サービスも充実し、多くの人びとが居住していました。

### 商店街からオフィス街へ

昭和54年大型商業施設の駅前移転など、駅前整理事業はこの地区に新たな変化をもたらしました。商店の閉店や撤退により、一時の賑わいも去り、お城とオフィスが並ぶ市街地となりました。

一方で、松本ほんぼん、市民祭、あめ市などのイベントが開催される中心地であり、

空地は駐車場となり、立地の良さからマンションが建設されるなど、景観に影響が出始めました。

今でも城を眺めることができる小路もあります。このような風景をこれからも残していくことが望まれています。



### 期待はこれからも

現在、策定中のまちづくり計画は、この地区の将来に大きく影響することでしょう。人口の減少は続いています。マンションの建設により増加している町会もあります。また、古い建物を生かして店舗を構えたり、新たに移住する人たちが共存しながら、誰かに語りたくなる暮らしを期待しています。

## 松本平の野鳥たち



エナガ

(撮影：2022.1.26 松本市)

全長はスズメと同じくらいだが、その半分は尾羽なのでかなり小さく見える。体重は6~8グラム。留鳥で、主に森林環境で観られ、樹木の多い公園や雑木林が好み。囀りは「チーチー ツルリリ」と細く複雑。雌雄同色。写真の個体は、大好きな樹液を吸っているところ。

## まつもと散歩

いろんなものを乗り越えて  
今年もすてきな春がくる  
きっと優しい花が咲く



(撮影：2022.2.26 公園通り)